

こうち+クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集:ルタテラ治療はじめました



高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。

ルタテラ治療はじめました

【2泊3日の入院治療】



ルタテラ治療とは？

ルタテラ治療とは神経内分泌腫瘍に対して行う核医学治療のことです。

神経内分泌腫瘍は10万人あたり年間3人～5人程度の発症とまれな疾患で、膵臓や消化管に発生しやすい腫瘍です。

ルタテラ（一般名：ルテチウムオキシドトレオチド）とは、RI（放射性同位元素）を組み込んだ注射薬のことで、神経内分泌腫瘍の表面にあるソマトスタチン受容体を介して薬を細胞内に取り込み、薬から出る放射線で腫瘍細胞の内側から直接腫瘍にダメージを与える治療です。

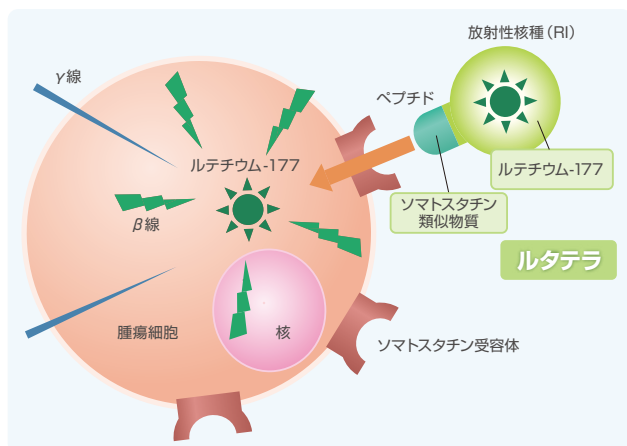
投与後は体内から放射線が出ている状態になります。周りに影響を与えないためにも一定期間、生活の制限が必要となります。

放射線の量は時間とともに減少します。48時間以内に約74%は尿で排泄されます。

周囲への影響は、距離が遠いほど、接触時間が短いほど少なくなりますので、意識的にご配慮願います。

治療は**8週間間隔で最大4回**の投与となります。1回目の日程が決まりましたら4回目まで投与日の変更は原則不可能になります。（副作用等で変更になる場合があります）

治療時は、体内から放出される放射線の量が法律で定められた値以下に低下するまで、管理された病室に入院する必要があります。



治療スケジュール

約6カ月間

8週間

8週間

8週間

ルタテラ投与 1回目

ルタテラ投与 2回目

ルタテラ投与 3回目

ルタテラ投与 4回目

2泊3日

2泊3日

2泊3日

2泊3日

スタッフの紹介



高知赤十字病院

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



消化器内科医と病棟看護師・外来看護師



放射線科スタッフ

※入院治療は2泊3日ですが、退院日に測定する**身体**の放射線量によっては、**退院が延期**になる場合があります。

※体内から放射線を出すという治療の特徴から**身の回りのことが自分でできる方を対象**としています。周囲への被ばくを軽減させるため、食事や排せつ、血圧のチェックなど、ご自分で行っていただくことが多くなることもご了承ください。

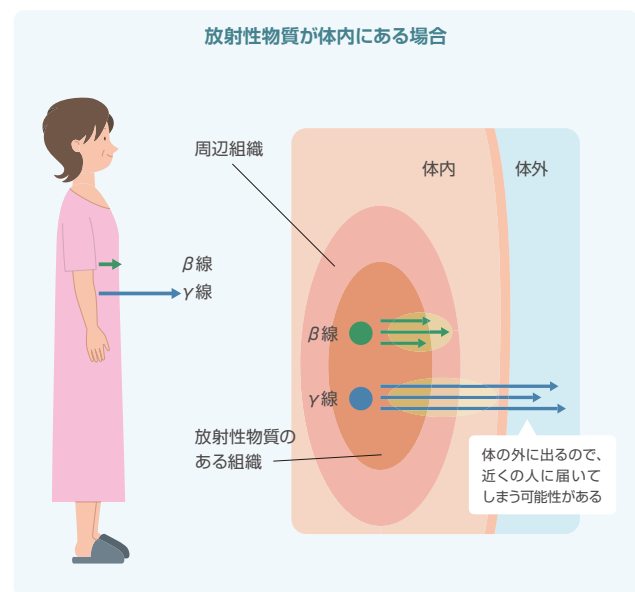
ルタテラから出る放射線について

この薬からは2種類の放射線が出ています。

β (ベータ) 線：飛ぶ距離が短く、腫瘍細胞に障害を与えます。

γ (ガンマ) 線：飛ぶ距離が長く、対外に飛び出してしまうます。

このため、周りの人に対する注意が必要です。



治療に使用する特別措置病室(個室)
※遮へい体(鉛衝立)を設置



ルタテラの治療を検討されている神経内分泌腫瘍の患者さんがいらっしゃいましたら消化器内科へご紹介ください。

※治療にはかかりつけ病院からの紹介状が必要となります

問合せ先

高知赤十字病院 地域医療連携課 TEL：088-871-3607 FAX：088-822-1468

ホームページはこちら



ソロモン諸島活動記

救命救急センター病棟 濱田 智子

南太平洋に位置する島しょ国であるソロモン諸島に青年海外協力隊の隊員として行きました。

ガダルカナル島があることで有名なこの国は第二次世界大戦で日本とアメリカの激戦地として知られていますが、豊かな海と緑に囲まれた島国です。しかし近年ライフスタイルの変化により、低タンパク・低脂質食から高タンパク・高脂質食へ移行し、生活習慣病であるNCDs（非感染性疾患）が大きな問題となっています。この国では国民の3人に1人が高血糖・糖尿病、5人に3人が肥満であり、多くの住民が心筋梗塞や脳卒中で命を落とし、20分ごとに糖尿病での下肢切断術が行われています。

そのような国の病院に派遣され、生活習慣病の是正や地域住民への健康指導、下肢潰瘍の創傷処置を行ってきました。高度医療のある日本では考えられないことですが、救われるはずの命が無残に失われていく社会。その中でも懸命に現地の人は生き抜いています。日本は高度先進医療国だからこそ、延命処置の有無や治療など選択肢の多さにあふれており、「生きる」ことを深く考えさせられる1年間でした。



医療情報技師とは、2003年に開始された日本医療情報学会が資格を付与する民間資格で「現在のデジタル化社会における医療情報システムの運用管理を担う実務者に求められる医療・情報処理技術・医療情報システムの知識を有し、医療の質と安全の向上に貢献できる人材の育成」を目的としています。私は2005年医療情報技師に認定され、約20年間医療情報システムの分野に携わっております。

当院では電子カルテシステムなどの病院情報システムが安心して利用できるようにサーバのメンテナンス作業や、パソコンやプリンタの修理などシステムの不具合が発生した際の問い合わせ対応を担当しています。

また近年医療業界の急激なデジタル化にともない、サイバー攻撃や個人情報漏洩などの情報セキュリティリスクも増大しており、院内での技術的な対策や職員に対しての研修・訓練なども実施しております。

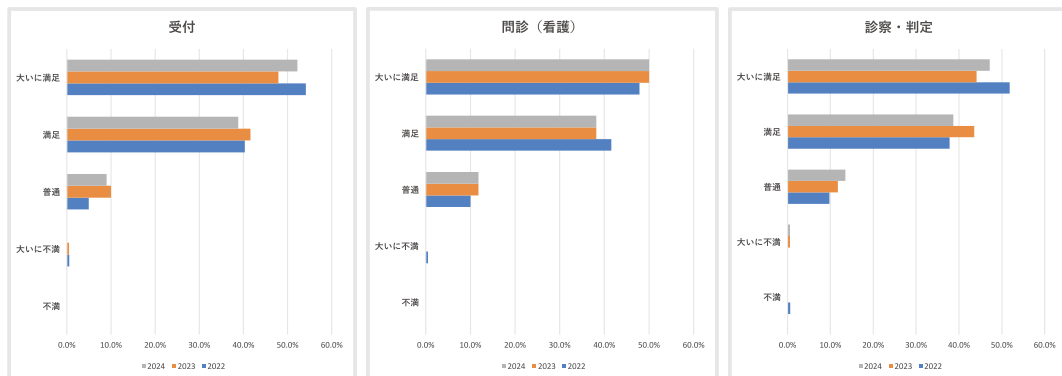
日々変化する情報社会において、最新の情報収集は特に重要と考えています。その点において、医療情報技師の資格を有していると、全国で頻繁に開催されている研修会に参加でき、同じ資格を所持している他病院の担当者やシステムメーカーの方々と交流できる機会が増えます。私も四国医療情報技師会のメンバーとして活動しており、密に情報収集を行う事によって病院情報システムの安定稼働に努めております。

今後も医療業界でのデジタル化はさらに加速することが予想されており、システム管理者としての医療情報技師の役割は大きくなります。医療情報技師の資格自体は年1回開催される試験に合格すれば取得可能ですので、興味がある方は是非お声がけください。



健診センターアンケート結果報告

当院職員の対応



受付	2022	2023	2024
不満	0.0%	0.0%	0.0%
大いに不満	0.6%	0.5%	0.0%
普通	5.0%	10.0%	9.0%
満足	40.3%	41.6%	38.8%
大いに満足	54.1%	47.9%	52.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

問診（看護師）	2022	2023	2024
不満	0.0%	0.0%	0.0%
大いに不満	0.5%	0.0%	0.0%
普通	10.0%	11.8%	11.8%
満足	41.6%	38.2%	38.2%
大いに満足	47.9%	50.0%	50.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

診察・判定	2022	2023	2024
不満	0.6%	0.0%	0.0%
大いに不満	0.0%	0.6%	0.6%
普通	9.8%	11.7%	13.5%
満足	37.8%	43.6%	38.7%
大いに満足	51.8%	44.1%	47.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

当院職員対応に対するご意見等

- 腹部エコー 新しい機械になれていないのか？スタッフさん2人で話しながらの検査でちょっと不安でした
- とても丁寧に説明いただけたし、気遣いがすごくありがたい
- 婦人科検診で女性の医師さんで詳しく痛みの原因を教えてくださいましたので非常に良かったです。
- 相談のところに書いた事についてのアドバイスが等がなかった
- 皆さん、よく受診者を見ておられ親切な対応が行き届いていると思います。不安なく気持ちよく、身体の状態を確かめつつ健診ができ有難く思います。
- 内視鏡の時間がいつもより長かったのでしんどくなった。
- 山崎保健師さんの気持ちよい対応に毎回満足しています。

その他、ご意見・感想

- 結果表を同僚に診てもらいました。標準値と比較できると良いなと思いました。
- 皆さん非常に親切でした。ありがとうございました。
- いつも笑顔で接してくださり、又、心あたたまる声掛け。うれしい！
- マンモグラフィは何度うけても痛みを感じます。もっと楽に検査できる方法があればと思います。
- 内視鏡の下痢材（ドリンク）飲みやすいものを希望（選択できれば？）
- 胃カメラの値上がりがつらい。前回の値段にしてほしいです。
- 今後の対応についてアドバイスをもらえて助かった。

院内迅速対応システム（RRS）報告

看護師長 井上 和代

院内迅速対応システム（RRS）は、早期に患者さんの急変に気づいて院内心停止になる前に、院内迅速対応チーム（RRT）が現場に出向いて介入し予後を改善するシステムです。RRSには【起動要素：急変発見】【対応要素：対応チーム（RRT）が出向いて対応】【システム改善要素：評価と改善】【指揮調整要素：管理】の4つの要素があります。当院では2022年から【起動要素】【対応要素】に取り組み、2023年に【システム改善要素】と【指揮調整要素】を開始しました。

RRTの要請は2年間で155件あり、突然悪化した呼吸不全やショック、頻脈発作などに介入しました。介入した患者さんの3割がICUに移動し集中治療を開始、7割の患者さんは病棟でそのまま経過観察で改善しています。RRSを導入し部署の看護師からは、「急変時の支援を求めやすくなった」、「専門のチームと一緒に対応してもらえて心強かった」という声が聞かれました。このような看護師からの感謝の言葉が、RRTのモチベーションにもつながっています。病院全体で協力することがよりよい医療につながると実感しています。これからも、医療の質の向上に向けてRRS体制を継続していきたいと思っています。



起動からの流れの確認中



肺炎症例のアセスメント中



モニタリングしながら患者移送中

救護主事対象赤十字災害救護研修会に参加して

企画課 西岡 奈波

2024年12月10日(火)、高知県赤十字血液センターで行われた救護主事対象赤十字災害救護研修会に参加しました。午前中は救護主事の役割を確認したり、情報収集として無線機を使用して災害対策本部と連絡を取り合う訓練を行いました。「高めの声で・明瞭に・ゆっくり・短く」といった無線機使用上のコツや、もう一度聞きたいときの「再度おくれ」・回答に時間がかかりそうなときの「しばらく待て」など普段使わない言い回しに苦戦。聞き取った情報から想像したイメージと実際の状況の違いにも驚き、正確な情報の伝達の難しさを感じました。

午後は同じ救護主事の方々と協力して救護用テントの設営を行いました。日常業務がデスクワーク中心のため、普段から体力をつけておくことの必要性を実感しました。研修のなかで「私は、飾り石のような華やかな人間となるより裏石のように目立たずとも人々を支える人間になることを望みます」(赤十字救護看護婦・竹田ハツメさん)という言葉を紹介してもらいました。この言葉を忘れず、今後も救護主事として学んでいきたいと思ひます。



無線操作研修中



「救護主事の役割」講義中



救護用テント前で集合写真

防災season シーズン

～当院の防災の取り組みや考え方を紹介します～

No.11

手術室 岡部 晴夏子

6月に院内災害対策訓練が実施されました。初参加の新人職員や2年目の職員、久しぶりに参加したというベテランの職員等たくさんの方が参加されていました。実際の地震・津波発生を想定して行われたこの訓練では、院内で作成されたマニュアルや、ファシリテーターの指導を元に初動訓練を行い実際の発災時にはどのように動けば良いか確認された事と思います。私自身も実際に対応する中でイレギュラーな展開があり、災害対策本部や部署内でのコミュニケーションの大切さを学ばせていただきました。また、そのような混乱している状況だからこそ情報をどこに集約すれば良いのか、欲しい情報はどこにあるのか事前に決めておく必要があると感じた訓練となりました。自身の防災の備えを見直すと共に、今回見つかった各部署の課題について改善していくよう取り組んで行きたいと思ひます。



Mobile Training Lab (MTL) がやってきました

循環器内科副部長 高橋 有紗

11月23日(土)、24(日)救急搬送口に駐車している派手な大型トラックをご覧になった方もいらっしゃると思います。

このトラックはカテーテル室を搭載した移動式トレーニング施設であるMobile Training Lab (MTL)で、手術室を搭載しており、シミュレーターを使ったX線透視下でのトレーニングが実施できます。
(<https://www.youtube.com/watch?v=HAUCuROaG8A>)

Medtronic社にて2022年から運用されており、アジアに1台しかないMTLが今回初来高しました。

済生会福岡病院・野副純世先生、小倉記念病院・永島道雄先生のご高名な講師の元、当院循環器科医師4名に加え、高知大学、高知県立あき総合病院、幡多けんみん病院の循環器科医師5名がペースメーカのハンズオンを行い、大成功に終わりました。



日本内科学会第131回四国地方会に参加しました

研修医 森田 晴樹

2024年12月15日に愛媛県松山市の松山市総合コミュニティセンターで行われた日本内科学会第131回四国地方会で「カルボプラチン+エトポシド+アテゾリズマブ療法にて長期間部分寛解を維持している小細胞肺癌ⅣA期の一例」を発表しました。

久しぶりの学会発表でとても不安に感じており、一緒に参加した研修医の三本先生と、会場まで向かう道中、何度も発表の練習をしました。

発表本番はとても緊張しましたが、ご指導いただいた呼吸器内科の豊田先生、石田先生に会場で見守っていただいたおかげで安心して発表することが出来ました。人前で話すのは苦手ですが、堂々と発表できて嬉しかったです。

研修医生活も残りわずかとなってきましたが、今後も何事にも一生懸命取り組んでいきたいと思います。今回お忙しい中、ご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



日本循環器学会四国地方会で 優秀演題賞を受賞しました

研修医 平岡 桃

愛媛県で開催された日本循環器学会四国地方会にて、学生・研修医セッション優秀演題賞を受賞しました。私にとっては人生で初めての学会参加で非常に緊張しましたが、このような賞を頂けたのはスライドの作り方などを一から教えてくださった指導医の先生のお力があってのものだと思っております。本当にありがとうございます。

今回発表した症例は、「レミエール症候群」という稀な疾患であり、臨床の現場に出て間もない自分にとって初めて耳にする疾患だったため、発表の準備を通して自分自身の学びにもなりました。

今回の経験は自分の医師人生における成長に繋がるような、貴重なものとなりました。しかしこれに甘んじることなく、より一層気を引き締めて邁進してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



令和6年度赤十字血液シンポジウムに参加しました

副院長 溝渕 樹

令和6年12月7日(土)広島大学 広仁会館で開催された令和6年度赤十字血液シンポジウムに参加し、「南海トラフ地震時の高知県における輸血用血液製剤の供給体制」の講演を行いました。今回はハイブリッド(参集+Web)での開催でしたが、会場にもたくさんの医療関係者にご参加いただきました。



日本内科学会内科専門医資格を取得しました

糖尿病・腎臓内科/リウマチ科 松本 秀志

令和6年10月に、日本内科学会内科専門医資格を取得しました。高知赤十字病院の内科専門研修プログラムにより専門分野以外の内科疾患を幅広く経験することができ最短で取得することができました。これからも引き続き、内科医として総合的な視点を持ちながら日々の診療にあたろうと思います。今後は、リウマチ専門医、腎臓専門医の取得を目指しながら、皆様のお役に立てるように精進いたします。



～手話を一緒に学びませんか？導入編・実践編～

手術室 徳永 旭

院内手話研修を実施しました。多くの方と手話・聴覚障がい者について学びを深められたことに喜びを感じるとともに、私自身“手話”という言葉の必要性を再認識させていただく機会となりました。

高知県では、12月20日に手話言語条例が県議会において採択され、12月26日に施行されています。条例では「手話が言語であることを認識し、手話に対する理解を深める」ということが県民の役割とされています。これに伴い、病院のみならずより一層県内において“手話”という言葉が注目され、手話に触れる機会も多くなってきます。

条例の制定に先立ち、院内において手話の研修会を開催できたことは大変有意義だったと感じています。

今年度の研修では、指文字や数字・挨拶、自己紹介といった手話、そして、聴覚障がい者の暮らしといった基礎的な部分の学習をしました。参加してくださった多くの方から、手話の難しさとともに楽しさや魅力を感じ、今後も継続して学びたいといった声をかけていただきました。

職員が聴覚障がい者への理解を深め、手話を身につけることで障がいの有無に関わらず、すべての人がより一層当院を安心して利用できるようになり、そして、手話による対応が可能になることで、一人一人の患者さまに合わせたコミュニケーションが取れ、情報を正確に伝えることができるようになると考えております。

少しでも多くの方に安心して病院を利用していただけるよう、研修会の内容もより実践的なものにし、回数も増やし、来年度も継続して実施していきます！



院内クリニカルパス大会の開催報告

医療情報管理課 岡村 太郎

2024年11月28日、院内クリニカルパス大会を開催しました。平日の夕方にも関わらず院内から75名の参加があり、発表に対しての質疑応答も活発に行われました。

院内学会で発表した演題は全国学会にも演題登録し、発表しています。

発表することで、さらにクリニカルパスの理解を深めてもらい、今後の委員会活動に役立ててもらいたいと思います。

今後も継続して院内クリニカルパス大会を開催し、医療の質の改善を行っていきます。

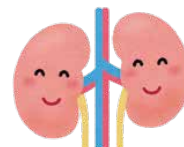


栄養課コラム

毎年3月の第二木曜日は世界腎臓デーです。腎臓は1個が150gほどの小さな臓器ですが、心臓から送り出される血液の20%以上が流れており、毎日200ℓもの血液をろ過して、老廃物を尿として体外に排泄し、体の中をきれいに保っています。体液の量や浸透圧・血圧の調整などほかにも多くの働きがあります。腎機能が低下する慢性腎臓病(CKD)は、糖尿病、脂質異常症、高血圧、肥満などがあるとなりやすく、さらに心筋梗塞や脳卒中といった心血管疾患の重大な危険因子にもなっています。慢性腎臓病の予防には血圧管理が重要です。血圧管理には食塩摂取量が関わっています。日本人の食塩摂取量は1日10g前後と世界的に見ても多く、日本人の食事摂取基準では、男性7.5g未満、女性6.5g未満とされています。また、日本高血圧学会は、高血圧患者における減塩目標を1日6g未満にすることを強く推奨しています。食塩摂取量が多くないか食生活を見直してみましょう。あなたの腎臓は大丈夫？

●減塩のポイント

1. 麺類のスープは残す 全部残せば2～3gの減塩
2. むやみに調味料をつかわず、味付けをみてから
3. 塩分の少ない調味料(ケチャップ、マヨネーズなど)の利用
4. 香辛料、香味野菜や柑橘類を利用する
5. 外食や加工食品は控えめに



CAFE CROSS

★研修医一年目のご紹介★

RESIDENT INFORMATION



わだ たけひろ
和田 武裕 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは？

小さい頃に花粉症でつらい思いをしましたが、その際に病院の先生にかけていただいた言葉で気持ちが楽になった記憶があり、魅力的な仕事だなと感じたことがきっかけです。



これが好き♡

ゲームが好きです。「Dead by Daylight」というゲームを毎日しています。周りにやっている人がいなくて、基本ソロプレイですが、もしやっている方おられましたら、一緒にやりませんか？あとゲーム好きな方、おすすめのPCゲーム教えてください。



私、スゴインです♪

これといってすごいことも思いつきませんが、強いてあげるとすれば、よく笑うことですかね。笑っていたらいいこと起こるかな～なんて考えてます。



研修への意気込みをひとこと★

まだまだ分からないことだらけで、毎日たくさんの方にご迷惑をおかけしているかと思いますが、日々多くのことを学び吸収していきたいと思っていますので、これからもご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

新入職員紹介 (同意の方のみ掲載)

(令和6年12月1日～令和7年1月31日)

氏名
職種・所属
●趣味・特技
●抱負



坂上 真優 さかのうえ まゆ
臨床検査技師(第一検査部)

●特技はたくさん寝れることです。多い日は半日以上寝ることもあるので、もう少し起きて趣味を見つけて時間を当てるのが今年の目標です。

●学生の時に臨床実習で高知赤十字病院で学ばせていただいたときから憧れの病院だったので、入職できてとても嬉しいです。今までお世話になった方たちへの感謝の気持ちを忘れず、日々成長していきたいです。

第16回地域医療連携意見交換会を開催しました

昨年、6年ぶりに開催された地域医療連携意見交換会から早や1年が経ち、今年も11月30日(土)に「第16回地域医療連携意見交換会」が開催されました。お陰様をもちまして、日頃より大変お世話になっておられる各施設の皆様と当院職員を含めた164名の参加を頂き盛会となりました。

本会の内容としましては、前年同様に講演会と意見交換会(懇親会)の2部構成で行いました。講演会につきましては、大阪大学 大学院人間科学研究科 平井啓先生をお招きし、「医療現場の行動経済学 ～すれ違う医者と患者～」の演題にてご公演を頂きました。

日頃の診療において、患者・家族との良好な関係性を築きながら治療を行っていくことの重要性を再認識させて頂きました。意見交換会(懇親会)につきましては、開始早々に参加者の皆様が各テーブルに足を運び、談笑したり、ご挨拶したりと顔の見える関係性をより深く築かれた機会となったのではないかと考えております。関係者の皆様、本当に有難うございました。



吾川郡医師会生涯教育講演会を開催しました

12月10日(火)すこやかセンター伊野にて、がんをテーマにした吾川郡医師会生涯教育講演会を開催しました。

今回の講演は吉田 光輝第一外科部長より「肺癌の外科治療」、がん看護専門看護師の溝渕 美智子より「がん患者のアピランスケア」のお話をさせていただきました。参加された方からは、「外見ケアは患者さん本人、さらに家族にとって重要なものと感じます」「実際の映像をみることができ、腹腔鏡手術の進歩にとっても驚いた」など、貴重な意見をいただきました。



吉田 光輝第一外科部長



溝渕 美智子看護師

高知赤十字病院
ホームページ

<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>



高知赤十字病院
Facebook

<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>



よろしければ
フォロワー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

